

平成31年3月10日

愛知県上海産業情報センター  
余語 克昭

## 一般調査報告書 雄安新区視察訪問記

### 1. 雄安新区とは

2017年4月1日、中国共産党中央委員会と国務院は、河北省に「雄安新区」を設立する決定を明らかにしました。同年10月には、習近平総書記が「十九大報告」において、「北京の非首都機能を分散させ、北京・天津・河北エリアの協同発展を推進し、雄安新区の設立計画を高水準から始動し、高水準の建設を進める」と言及しました。

この雄安新区は、中国の「千年の大計（千年にわたる大計画）」と呼ばれる新都市開発プロジェクトで、これまで改革開放政策をリードし成長の核として地域の経済発展を牽引してきた広東省の深セン経済特区や上海市浦東新区に続く、全国的意義を持つ新区と位置づけられています。

2018年4月には、2035年までの建設計画を決定、混雑する北京市から、首都機能と関係のない産業や施設を移転させることが発表されました。最先端のテクノロジー企業や研究機関を集め、世界トップレベルの交通機関を整備する計画で、渋滞や大気汚染等、従来の中国大都市の都市問題を解決する、新たな都市開発のモデルになろうとしています。

### 2. 雄安新区の開発現場を訪れて

さて、去る2月、自治体国際課協会（クレア）北京事務所の主催による、雄安新区視察会に参加し、雄安新区の開発現場を視察する機会を得ました。

雄安新区は、上述のとおり、京津冀（北京・天津・河北省）の三地域を共同で一体となって発展させるという戦略的位置づけに基づいて開発されています。北京、天津からそれぞれ105kmの距離にあり、北京市中心部から南西にある河北省保定市に位置しています。

現在、雄安新区へは、車であれば北京から約2時間内外必要で、また高速鉄道の場合、現在の最寄り駅の白洋淀駅へは、北京から1時間半ほどかかります。将来的には、建設中の新駅に高速鉄道が4路線乗り入れ、北京と約30分で結ばれる予定とのことで、2019年9月に開業を予定している北京大興国際空港からは約20分で結ばれる計画とのことでした。

2019年2月の訪問時点までに、新区の北東部分には、プレハブ工法により迅速に建設された管理委員会や党工作委員会、行政窓口（市民センター）、都市計画館などの施設が完成していました。

開発には外資企業も参画しており、その中には日本企業も含まれているようです。デジタル、インターネット情報、人工知能、生命工学産業等のハイテク産業の誘致を重視しており、アリババも開発に参入しています。スマートシティとして、ビッグデータとクラウドを活用して無人バスの路線を自動的に生成・最適化するような未来を構想しており、カメラやセンサーで住民をモニタリングし、将来的には、例えばエネルギーを節約する行為等にポイントを付与するといった構想もあるそうです。

他の都市と差別化できる点としては、農地や非先端的工業の工場等を移転させた広大な土地があるため、新区全体をゼロから開発できることや、また地下空間の利用の自由度が高いため、地下鉄も高速鉄道も敷設が容易である点が挙げられるそうです。また、都市緑化として、新区の南側にある湿地（白洋淀）を利用、植林にも取り組んでいます。



現在の最寄り駅「白洋淀駅」



雄安新区管理委员会



完成済みの市民センター



NEOLIX（無人販売車）



緑化植林現場



周囲にはまだ広大な耕作地が広がる

現地を訪れて驚いたことは、既に観光客らしき多くの人が、この国家プロジェクトの開発現場へ見物に訪れている風景でした。

今はまだ限られた区域以外は開発途上で、周囲には開発予定地の広大な更地や耕作地が広がっていますが、それほど遠くない未来に、ここが上海市の浦東新区のような高層ビル群が林立する最先端都市になるのかと思うと、荒地を見てもそこには浪漫が感じられ、開発初期の現状を見ておく機会を得られたことは非常に貴重な経験であったと思った次第です。

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。